

吾妻 中津川本流

笹川

【日時】2008年6月28日(土)～29日(日)

【メンバー】L笹川、小暮、大田原

レストハウスで仮眠をしていると4時頃からライダーが集まりだし、寝てられない。料金所前でUターンしてレストハウスで待ちあわせているようだ。

レストハウスから遊歩道を通り入渓するとすぐにお待ち兼ねの白滑八丁となる。雪解け水で水量が多かったらどうしようかと思っていたが、苦労する程の量ではなかった。しかし、へつり始めにしては難しく苦労した。フリクションが効かない足裏を見ると右足のフェルトが半分剥がれていたのだった。今日は天気が良いので釜に陽があたりきれいな景色が続く。一箇所水量が多く泳ぎで突破できず、ヌルヌルの壁をトラバースして抜けたが、たわしが欲しい所だった。

魚止め滝15Mを左岸のルンゼから巻くとすぐに取水堰堤となる。水に濡れるのを嫌って左岸から登ってしまったが、一度泳いで右岸から行くのが正解だったかもしれない。

しばらくゴーロが続くが左岸に道が見える。観音滝も直登できないので右の踏み跡から巻く。所々、水に浸かりながら進むと2M滝の右岸側に固定ロープが出てきた。思ったよりも釣り師は奥まで入っているようだ。

またしばらくゴーロが続く、権現沢に出合うと次々と登れない滝が出てくる。神楽滝40Mは左岸の踏み跡から巻くが藪が濃くなり、踏み跡は次第に薄くなる。小暮さんが笛採りに一生懸命なようなので離れないように何度もトマコールで呼び合う。最後はルンゼから沢に戻る。すぐに夫婦滝となるが、ここは左に鎖がある。次の静滝には右に鎖があった。さすが百名谷といった感じだ。

熊落ち滝下で浅井さん達の記録を読むと、我々の方が1時間半遅れで今の場所において熊落ち滝を高巻くのに2時間かかっているのが焦る。左岸の何となく踏み跡のような所から



左岸のツルツル壁をトラバース

高巻き始めるとすぐにマスタケが大量に出ていた。マスタケは小暮さんに任せ急いで高巻くことにする。あまり大きく高巻かないように進むと1時間で熊落ち滝上に出ることができた。

急いで天場探しに取りかかると、浅井さん達も同じ所に泊まったであろう右岸の高台に良い場所を見つけた。焚き火にあたっていると小暮さんが上の釜からイワナを一匹ゲットしてきた。筍を焼いたり山菜のおひたしを作ったりで忙しく、自分の酒を一適も減らせなかった事を反省した。

また長い一日が始まった。今日はいかに朱滝を早く抜けられるかがポイントだ。朝ごはんを食べていると雨がポツリと降ってきた。天場上の滝は右から簡単に登れた。右に屈曲している筋滝は下部が被っていてヌメヌメしているが、右側を小暮さんがリード。その上の6M滝は右から巻いた。沢床が赤くなり始めたところで朱滝が現れた。もちろんとても登れそうにない。左岸のルンゼから取り付こうとしたが、悪く大きい落石も起きそうなので、すぐに諦めた。もう少し下り左岸の尾根から取り付いたが、直上しても悪いので更に右に回りこんだ。30分のロスで滝上に出た。

もうこれで終わりかと思ったが、ちょっとしたミニゴルジュや小滝が続く。ヤケノママは右岸に赤い壁となっていた。最後はどこまでもゴーロが続き疲れた。最後の二俣を右に行き、最後は湿原に出た。

登山道に出て水場のある大凹で一休みしたかったが、2人とどんどん離れてしまうので我慢して歩き続けたが、西吾妻山手前でシャリバテになってしまった。動けなくなる前に行動食を口にしたが、行動時間が長いせいか行動食が残り少なくなってしまう。更に西吾妻小屋で大田原さんからパンを頂戴して、やっと普通に歩けるようになった。

今回はゴンドラを諦め、ひたすら沢のように水が流れる登山道を下った。ゴンドラ山頂駅からは林道を行き、スキーセンター前にタクシーを呼んでレストハウスまで戻った。1日中濡れ鼠で行動していたので、タクシーに乗車拒否されないか心配していたが、あまりにも寒そうな格好だったようで、乗り込むとすぐに暖房を入れてくれた。

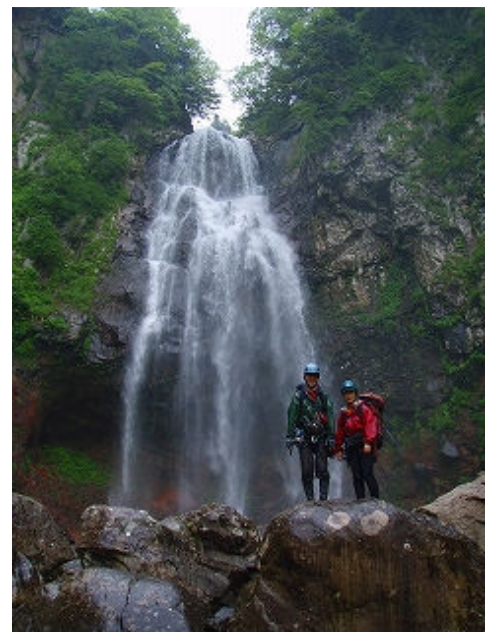
3日かけて黒滑八丁から遡行しようか迷ったルートだが、魚影も見られ、詰めは湿原なので、やはり2日ではなく3日かけて遡行することをお勧めしたい。

【グレード】3級

【行程】

6/28 中津川溪谷レストハウス(7:45)～取水堰堤(11:40)～観音滝(13:00)～権現沢出合(15:00)～熊落滝下(16:30)～熊落滝上(17:30)～BP(17:45)
6/29 BP(6:30)～朱滝下(8:15)～朱滝上(10:00)～ヤケノママ(10:50)～1596m地点(11:35)～登山道(14:00)～ゴンドラリフト乗場(16:50)～スキーセンター(18:00)

【地図】吾妻山、天元台



朱滝